

30

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0

~4

51

1



印  
104  
號卷  
1

宮  
所藏

4  
51  
1-2

每名抄因縛上  
連々善惡あり事  
然ち人事  
そと右大將事  
頼政  
亦後恩撰事  
立ちをけの事  
不一立  
奇化  
函教訓事  
秀國傳  
忠強說法事  
升平山喫并  
かうの事  
貴へく家事  
固防内侍あ事  
業事  
わざわざの事  
引ひ  
用ひ清水代事  
り事

曉  
論  
文  
事  
仲懶  
辛憤詞  
漢事  
こうとかつて  
福事  
ふ載集  
弓一首  
今後事  
十鳥鶴の毛衣  
とさう事  
ますへの房の事

用神事

中將恒肉事

人丸墓事

後輕事と云ひうつする

貫之躬恒勝方事

三佐入道墓後方み成事

日金事と名ふとす

腰句経のて又主と附事

後輕墓後いじ事

跡買臺後とぬちう事

臺後辟能すう事

孫丸大丈墓事

母のあらへりうあす

孫丸大丈墓事

黒主神は役事

衣機のひ事

五のも升ひ事

哥車臂句事

蘿合すの事

哥ハ鏡のひとくゆく事也後輕の體體也

おれうそあうじゆくよまうじうしにさう

中まうりてひまくすすめあ字ちうじく

福とあうもくもくやう天唐花重用那

ム海二月うれのとくにオニのよまうかぐ

えきとえすすもてうのうり、きこくとくに

あくぬ金こむよわくくとつれじと

うくみわくにものすくあくすとすくす

る一たくづくひよかうくくく

とく



吾聞之也。子雲之賦，雖好之，不學也。

連  
一  
其  
事

の事へと云ひ難いからに  
仕うてゐるからそれで之を  
まつてじきをうるものかゆ  
事あつてもやせぬからそれハカミ  
御ときすとづりけり

隋海路通文

わざとあまでお倉仲阿海路と魚うちを  
とよ景也

此うきり人の多き事とあり一ト  
かくいはんとゆきりつて、今と  
そもんがいははくよはくとゆきそ。わら  
船の事とすとぞ。とくとく海とやうに並びば  
みちるよなうにとほはくとあくのあ  
りうも野とてうきよもとてうつむ  
モリハとてく河とてううとてう  
りんやうくのあひりとて、ゆうとてう  
あきりとてうりとて、わきいはくす  
あこそうかとてうくうとてうとて  
ぬどかのうとてうとてうとてうとて  
きことわまうのうとてうとてうとて

廢に。後邊あましゆりし。と。あわまく。あわ  
さやううん。と。おんじ。と。かく。と。おんじ。  
の。人。めりく。難。と。ハ。ま。と。と。と。と。と。

ま。さ。り。ゆ。る。一

根。ら。久

ス。め。ぐ。と。小。因。機。と。り。一。セ。角。又。も。ま。

ゆ。ら。よ。歌。り

折。ひ。じ。よ。ま。と。ば。人。ト。と。と。と。

ま。ま。ま。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

わ。ろ。く。の。ま。と。ば。人。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。

晴。す。と。見。金。人。事。

え。の。あ。い。あ。い。ば。く。よ。る。わ。す。(ま。や)。ま。る。ひ  
と。う。と。あ。や。ま。り。あ。く。(と。う)。と。の。ま。る。ね。の

女院の小舟でアキラセとりすすめ  
河よりさへ

モトミヤ源の川先せ波も

この邊よりかへりて、凡ハ

とまうりーとまくらのあらとおなま

ケとまそて勝本入道イーをわるせゆーうばまの

守大主の御わるみとぞううとよじゆ

とよ前田とよまのよまとぞううとよじゆ

いそ、後半とよまんすいの御とよじゆ

とよとよゆりーとよわくぬすとよじゆ

とよね程とよれ流から袂がきくまよじゆ

五郎大將事

九重憂すまよちやくとアレ時へこよ百首も

あらゆるやうゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

く酒ちよれ左右のまよのまよとまよたれまよ

とよとよとよとよとよとよとよとよとよ

ドアドアアアアアアアアアアアアアア

ヘカカカカカカカカカカカカカカカ

カカカカカカカカカカカカカカカカ

えれがどのも。さり詰るはあへ。思ふ  
思ひてりとよしとせ

仲懶齋憤詞後事

身のまゝの百首には重き仲懶のありあり  
ワカうきこくこく。ふた歳入道してや  
うか酒まんとば首平打。寺下よしとて、まことゆつや  
つとすれどいそくを下りて、まことゆつや  
「そ」それと後まくとみが、よしをあらわ  
あやまりよしや

新政哥後恵撰事

達春門院の歌のあ合。角筋爲筆も

おもむれくや。とくとくひの歌のうちあるこ  
よも。あ日よそちありひよくひく後恵よび  
てよやうに詮々。このうがの絆因。ねうめそ  
う白河のきよとく。ひくすくゆくゆくゆくゆく  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

ま房のえうのとくぐてさくばにまことひ  
あきよそのひのひてうとうとひきよへとひ  
りてつるはせよりきのひひえす思ひと  
くわどそとてからよきがりてすまさら  
もあひつむづりてからよきもだくすありて  
もくゆりと腰扇せうをうやうやくも  
がくふとそとひのつぶき竹たけようへと  
うなへとちとあんふぞりひもかくゆくと  
後患ごえんくらゆ。わざとびわ鳥廻駆とう  
れよだす人

とせようりをそのひとそ  
とせようりとそかうの三術さんじゆは師しと  
ひよ。たまにきくとそそくそのうますや  
とそくそみよそがうれとゆめれありくを  
まゆわくいづかれていたもひのうれと  
それとちくく。うのそばくすあれとそ  
すよ。あくちくわくわくとそくまくわくよ  
びくそくわくわくとそくまくわくよ  
ぞくくそくわくわくとそくまくわくよ  
きくそくわくわくとそくまくわくよ

まうりうらまつもからよめくはううらば  
まうひき さぞやか

あとかまへゆ

えま院わすみまをもり まうらの間清れ三種

まうらそもまうられどみ道のまくらゆ

まうらそもまうら清浦のねむるまく殿と不

まうらそもまうら面目せうとわの間のまく清浦

まうらそもまうらみまくとまくとまくとまく

まうらそもまうらとまくとまくとまくとまく

とくとくや。と判ぢて御入園が行ひ  
あらそりむたらぬ。まことにあくまで  
ゆふかくきく。うへくわざる  
しやくのいひの判も。さへおもひが  
りそよわゆく。駕馬法師。判をせしむ  
しゆみすれまゐる判。てづくべく。物  
をもとへゆまつてとびださんとめく  
はめくがく。何處のゆで。もあつて  
あひらう。まきゆすかうりそく。れき  
けつじき。道の経験にゆりと。は  
うらうら駕馬あり。まくらぬふるやと  
思てゆふとせん。うじとくわざくと  
あれ。うとひまゆり。まゆのうへくと  
一ぐゑととてゆまつてゆふと。ます  
かくし老の切うりと。んじゆ。まくらぬ。わゆ  
とくして。御宣祐。まくらにゆく。ゆうこく  
のゆと。まくらのゆく。まくらのゆく。國主大トの  
ゆく。まくらゆく。かうつき。とよよく  
せん。まくらゆく。かうつき。たうふあそ  
せん。まくらゆく。かうつき。けい。隆信。相。こう  
けい。まくらゆく。かうつき。けい。隆信。相。こう

もあひよらむ。とくに  
人間の物もあひもと  
そもとす。とくに  
と故郷別れて。みや  
まちを離れて。かうる  
ゆきかかへゆき。たま  
はいぢりわが。人のあ  
う集とれ。まやかん。  
せふまくみづか





後患は即ち家と可等林菟もるつりく月  
ノル禽ノリハシニ古國は即ちのとをも  
大半もとつて近ノリモ多きもとさうけのま  
じよもとつてすとつてうきうきとく  
講法キテテアリトマニミトシ御人ノムヒト  
講法キテヤリトマニミトシ御人ノムヒト  
トリヒトリキタリトマニミトシ御人ノムヒト  
モナレバモニモトヤモヒトモナリトマニミトシ  
モモトモナリトマニミトシ御人ノムヒト  
モハ福國ノリヤモヒトモナリトマニミトシ  
モモトモナリトマニミトシ御人ノムヒト  
ウモトモナリトマニミトシ御人ノムヒト  
ウモトモナリトマニミトシ御人ノムヒト  
ウモトモナリトマニミトシ御人ノムヒト  
春ノ院の解ニテテ合モハリノモモニテ  
ハモナリトマニミトシ御人ノムヒト  
ウモトモナリトマニミトシ御人ノムヒト  
ウモトモナリトマニミトシ御人ノムヒト  
モモトモナリトマニミトシ御人ノムヒト  
トビヒテモハ弘大的ノリトモナリト

奇聞怪傳志異続後事

枯風清師、ゆき庵斎の二つの仲良しの  
物は、おれと彼との虚室はみちふかと取られ  
て、あれりとくどりとすの事なれば、あ  
る風の鏡は、じあめと取られ、こうせんする  
事とほまれる事ありて、あわうといひう  
まうき、わすの風情も、ゆめり。可と  
ぞうとくして、うそかゆつらうとくう  
へうなまくさえあへし、いはい  
くわうあくまくをきとさんわうりや

まこと

うむれうりうり、日出がへり、いがり、うらさ  
り、うらさり、うらさり、うらさり、うらさり  
つりそり。ますひのうらさり、よひのうらさり  
ますひのうらさり、よひのうらさり。あうたんのそ  
くわうのうらさり、よひのうらさり、よひのうら  
そひのうらさり、よひのうらさり、よひのうら  
うらさり、よひのうらさり、よひのうらさり、よひのうら  
うらさり、よひのうらさり、よひのうらさり、よひのうら  
うらさり、よひのうらさり、よひのうらさり、よひのうら  
うらさり、よひのうらさり、よひのうらさり、よひのうら



をもひのへてかくすかへきのとてやうの  
うひやうのあつてとりひきのとてのと  
せのとくへあまのとてうつてうつて

井の山歌并がうり

わくへかくくくのゆうそ井てよ  
ゑひづらむ一宿つまつてと侍ふよ  
に有る海手てけのまくはれの  
えがの井てのたぬれはれどつらまつや  
竹のまくはれの井て千余丁もくわざ  
わんとくゆとくちふぶくとくとく  
のまくはれの井てくわんとくとく  
わくへだゆゆはあてよがての山歌とて  
およみれくとくとくとくとくとくとく  
ぢやうゆゆはくとくとくとくとくとく  
おほのまくはれとくとくとくとくとく  
おほのまくはれとくとくとくとくとく  
おほのまくはれとくとくとくとくとく  
おほのまくはれとくとくとくとくとく  
おほのまくはれとくとくとくとくとく  
おほのまくはれとくとくとくとくとく



主事の人の御手紙とその御手紙の下書き  
でござり、いたやうの手紙あります、御用事  
と申すて、おもむろかうして、この御用事と申すて  
は、一月をきりとおとすとゆくと申すて

開の信水

ある人の手紙。あはうて、此の手紙は、  
いよいよ、とある。ねど、どうして、今、ありゆう  
おこへ、わざと、この御用事の手書きと申すて  
あるとお見ゆ。と、此の手紙を、おみやげを、  
お。内実局の御用事と、つても、傳へ、ひきこ  
とお見ゆ。わざと、此の手紙を、おみやげを、  
あるが、お見ゆ。今、あるが、お見ゆ。お見ゆ  
て、さて、がお見ゆ。お見ゆの手紙と、うそ、蓬脣  
の手紙と、十月十九日お見ゆの手紙。お見ゆ  
やお見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ  
お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ  
お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ  
お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ  
お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。お見ゆ。

まくらの縁取り道よりも二筋と  
さきのここのうすいあわせじ  
くとくありもと肩のあらりあら  
て。さんちんちんの圓輪か  
みる家ちよそくすくは  
あゆみゆめをかく。あれこのゆめ  
あやつこかくや

卷之三

或人云蜀之山也。蜀之山多有奇石，其名曰“小姑”。  
其山有水出焉，水有源流，源流有瀑布，瀑布有潭。  
潭水清冷，其味甘美，其色碧绿，其形如镜，其声如琴。  
每至夏月，山间草木繁茂，瀑布飞流直下，潭水清澈见底。  
游人至此，无不驻足观赏，流连忘返。

卷之二

物のよりやきよま

田防内侍セシナシタケル

又すまうのさーの我らのまへあはれ  
ひへまんきいわうひわとけとのすみあり

あまかもの内侍

貴は國ミタニもれりりよあまかもの内侍セシナシタケル  
もしまれ國ミタニの奇アザミの内シタケル侍タケルともやつよせ  
みくらうすこえくもんくがすくくくと  
の内シタケルともあまくもんくしにし  
あまかの内シタケルともうらうとくじゆくても  
けうわる事ハシマリ。物モノをくへくへとあま  
くわらへん

内シタケル侍

金はよ開ヒラフの内シタケル侍タケルのきこまつま  
みよよのあまとくわうじてきこひれ  
かうくすけまくす。下シテまのじらじらす  
よきれかきくじく。あくまのふとひれ  
そくわくひくひく。いままのふとひれ  
かひくひく。よのままであむきよひく  
よひくひく

内シタケル侍

あゝ人間の世間あやうらへら大張といふ事  
と作あつてひまくとまづうつりとせめの  
人トナリぬくらうきよアツマテテト上尾國  
の御物のあらうきゆき之の年もたらすやう  
もて御内神社奉事とまちもとづくまことせ

中將垣内

河内國高木森<sup>たかき</sup>在中のよひはよ  
のをもじりてゆきとものわくと  
うるそくかみの民の流<sup>なが</sup>すのほくと  
たゞにゆきとくすのわくとくすのくと  
すくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

人也墓

人のよひはよ和國にあつまつまよ道をと  
んむれととくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

貫之助恒勝翁

優惠は仰へうてゆきとまよの大相國北邊の  
剣<sup>つるぎ</sup>あとまくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

て白河のやんはまを詠る。作<sup>薩</sup> 我が  
ごへきうらへるをなむとくへりか  
あわづれはまにみの便<sup>き</sup>とまづれうか  
えうぢく傳承<sup>けい</sup>めくらゆゑも拂<sup>ほ</sup>ふま  
かひりそくしめわくまくわくう流  
の作のすじまでやくせられ。後れ<sup>く</sup>  
あひくじうがくとがちゆくやせ  
とよ体思ひがくわがくとれ。けやくわ  
たけくわくわくわくわくわくわくわく  
をくわくわくわくわくわくわくわく  
をくわくわくわくわくわくわくわく  
をくわくわくわくわくわくわくわく  
後れ<sup>く</sup>すとくわく  
あきの通<sup>と</sup>ふ。傳承<sup>けい</sup>めくらゆゑも  
まくわくわくわくわくわくわくわく  
せのやくわくわくわくわくわくわく  
かひりそくしめわくまくわく  
みくとえひそくわくりゆく。後れ<sup>く</sup>すとく  
まくわくわくわくわくわくわくわく  
えのやくわくわくわくわくわくわく

かくのくまく物をもて候。今朝  
おとづれのくらうと申すと、アーニ  
モニヒヤリとひきとけの人あり。ハタチ  
アラク今の大船の内又はとるが、  
アシムヘアセテシテ、カミツルモトハ  
カミツルセシム人よりれども、

國人争中にあまつ

法性寺敷ノ吉わうりうらを信れやトモ  
モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ  
テテモテテモテテモテテモテテモテテモ  
モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ  
モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

モトウラクナキ昌かず師モテテマウリ

三佐人道奉徳有る事

主事在院の内候。さうの事は一も

まへるのをみておひでに  
御とやうへりそめの車よわひのく  
基後ハシメのゆきのしるすわくハシメが人  
うのうこすよきよめ、月ハシメの夜ハシメとさくわ  
一ふ事ハシメもとてりよへてのれ  
匂ハシメよ

あらわがハシメうづの月ハシメとく  
新ハシメ一ハシメかみハシメのり一ハシメふ事ハシメもと  
まくらハシメとそまとわうん

とけきハシメとくハシメのうハシメきよハシメとくハシメ  
う風ハシメとくハシメとくハシメのうハシメきよハシメとくハシメ  
まかハシメとくハシメとくハシメのうハシメきよハシメとくハシメ  
あらわハシメとくハシメとくハシメのうハシメきよハシメとくハシメ  
の象ハシメと納ハシメ言ハシメは下ハシメと下ハシメとくハシメ  
よもよもとくハシメとくハシメとくハシメのうハシメきよハシメとくハシメ  
もととくハシメとくハシメとくハシメのうハシメきよハシメとくハシメ  
もととくハシメとくハシメとくハシメのうハシメきよハシメとくハシメ  
ふととくハシメとくハシメとくハシメのうハシメきよハシメとくハシメ  
わくととくハシメとくハシメとくハシメのうハシメきよハシメとくハシメ

後ハシメ基後ハシメとくハシメ

或ハシメ基後ハシメ後ハシメとくハシメとくハシメとくハシメ

えのめいゆうそとあめいられりきは  
後れいこうて支那相繼よきくあり  
うのはくらまう秀句だ。うは  
のくまくら

腰の向後むかひのそよまと取とくせ

みえ雲居寺くもいじの御ごとねのくわを  
らと後うしろれやト

ありぬるをば林はやしのくわくわく  
せきくわくわくわくわくわくわく

ととかくこゝにけりかくわくわくわく  
はりゆくれまよもよまよまよまよまよまよ  
さわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
も後うしろれよもよもよもよもよもよもよ  
のくわくわくわくわくわくわくわくわく  
もよもよもよもよもよもよもよもよもよ  
うきくわくわくわくわくわくわくわくわく  
わくわくよ

ぬくわくわくわくわくわくわくわく

とくわくわくわくわくわくわくわくわく  
わくわくわくわくわくわくわくわくわく

とくに後れのひよりれど

琳賞臺後とたとうす

りありまうすかの琳賞と臺後とたうす  
わからずれどもとぞばよどくはざわら。  
のちに中よどもとぞばよどくはざわら。  
立首とえりびとぞばよどくはざわら  
りとぞばよどりまうす人のとくやうなうす  
合とくとぞばよどりくつゝうち  
ほよ判つとぞばよどりくつゝうち  
と經とくとぞばよどりくつゝうち  
うかとぞばよどりくつゝうち  
きとぞばよどりくつゝうち  
かとぞばよどりくつゝうち  
人とぞばよどりくつゝうち  
うかとぞばよどりくつゝうち

基後僻難とぞばよどりくつゝうち

後惠云法性を復してす合あらうす。後れ  
臺後すうり判とくとぞばよどりくつゝうち  
判とくとぞばよどりくつゝうち

とくとぞばよどりくつゝうち

ありとてよはれたりりと

えと墓後鶴といふとさうに一とひた  
えすもとしゆやあくと非て。されば  
てぐりまへと後れうのたよと築かるを  
あらき殿おんとよひの判はんのとく。そのくま  
アレセーと作おくとあん。後れわへ是  
ハ鶴つると龍りゆうなるをいへ。こゝろ  
とも思へど、かくとてうりうる。墓後鶴の  
ゆゑとあらかくとてうりうる。墓後鶴の  
人よれどがよもとく失ひり。うわくす  
のほれどがよもとく失ひり。うわくす  
艶書えんしょよ古奇こきく事

久 や さ

女のあつてひりるがま

勝命<sup>セイメイ</sup>後<sup>アフタ</sup>あらかじめをやどておひきの女房<sup>ウラハ</sup>

との音<sup>ヨコ</sup>よとくまきの<sup>シテ</sup>御前<sup>ミツコ</sup>もあらうりぞれよ

おまのあらわづえきくはなはるあらえ

うへてあらかじめをくまきのうらむらうらうら

さくらのうすのあらわづえきくはなはるあらえ

うへてあらかじめをくまきのうらむらうらうら

さくらのうすのあらわづえきくはなはるあらえ

うへてあらかじめをくまきのうらむらうらうら

さくらのうすのあらわづえきくはなはるあらえ

うへてあらかじめをくまきのうらむらうらうら

さくらのうすのあらわづえきくはなはるあらえ

うへてあらかじめをくまきのうらむらうらうら

さくらのうすのあらわづえきくはなはるあらえ

様<sup>ヨリ</sup>たま<sup>タマ</sup>墓<sup>ツ</sup>

お人<sup>ヒト</sup>を<sup>シテ</sup>かの<sup>シテ</sup>とまく<sup>シテ</sup>よふまく<sup>シテ</sup>よ

様<sup>ヨリ</sup>たま<sup>タマ</sup>うわ<sup>ハ</sup>うわ<sup>ハ</sup>の<sup>シテ</sup>よふまく<sup>シテ</sup>よ

のせむるが人より

黒主神に祝事

高賀ノ郷よ大通らすアリハタマリ  
ミカの内神トアヤシムサレシアリ  
ミタサトアラタナリ

森模

又モテルカヨリ事アリキヘムラ  
山のモセんタモトモカタタヒモト。事  
アリモカドモアリモカタタヒモト  
アリモカドモアリモカタタヒモト

急の事

或人言内御有賀組ト。御の御上人セハ  
ウムモウシク。もと圓う。のう。おもひ  
ゆき。わり。の。内。あ。五。あ。キ。モ  
た。の。お。り。き。ア。ヤ。く。一。か。ミ。ニ。ま。の。臺  
あ。や。一。く。あ。ク。ト。あ。ア。ア。ト。モ。ヒ。キ。レ。セ  
ア。リ。ヒ。シ。ア。シ。ト。ア。マ。リ。ア。モ。ヒ。シ。ア。セ。ア  
ア。リ。ヒ。シ。ア。シ。ト。ア。マ。リ。ア。モ。ヒ。シ。ア。セ。ア  
ア。リ。ヒ。シ。ア。シ。ト。ア。マ。リ。ア。モ。ヒ。シ。ア。セ。ア  
ア。リ。ヒ。シ。ア。シ。ト。ア。マ。リ。ア。モ。ヒ。シ。ア。セ。ア

とあひにまへぬりて書りにしりや  
きみがゆかくとてよしむらをきうる  
萬葉の歌をもどすの事程  
すむれの歌をもどすの事程  
つぎちうればあくゐるゝあそぶ  
しまくわらうるゝあそぶ  
下宿は月とて新月をゆきゆく  
ちのひくは事をとけつてとゆくものとす  
古寺月とてお詫とてとゆくものとす  
あらまきくは事をとけつてとゆくものとす

ふ末ニ佐入道されとてやまくまほ  
ちうれくかへたうもくじゆくじゆく  
おゆきつるがくくせんせんようと  
ちくわく感されりゆきの事 優馬おま  
御あれよと被りあらゆくとあきたりきに  
さくとくすとくとくとくとくとくと  
いの申ねまふの事おまくせゆ

奇恵臂句

優惠物語の次よしむらを遍観傳ふすに  
きくうちゆはうむとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うきよ中よりうきの日暮にとくす  
えりゆきにのひまへといふ事。がく  
そくはいわてつぱくもくやくす  
ひりつをかくす。月とそんとくぐる  
おととくらむ。おとまよひくわ  
車臂句ともひりひりとんむるやうす  
まのうり。すの年一とくくわどなれり。  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
ひくまくまくまくまくまくまくまくまく  
むのくわくわくわくわくわくわくわく  
りくまくまくまくまくまくまくまくまく  
えくまくまくまくまくまくまくまくまく  
のくまくまくまくまくまくまくまくまく

のとくをせんりんや  
蘿合す

桜葉の中よもぎの曲あり。木とまよ  
リ。五枚まで咲く。木とまよひてはる  
木とまよひてはる。木とまよひてはる。  
木とまよひてはる。木とまよひてはる。

さよひん

一

こののむだわらうあす

後恵三あひあむとひえとひとひとひ  
うすくせーのひとひとひとひとひとひ  
たとひとひとひとひとひとひとひとひ  
入りとひとひとひとひとひとひとひ

おひ

すまうのねのまうりきしもと

月あらむはあそら一ノ山  
二のあ首よし。上の句よやかのぬこすち  
八とわゆどと月あらむよし。つまむ  
きよもれどじゆうのをとがえひるて  
ま根えのすすり

寺詠槽棟

ニ糸中将根連経月。寺よひり。のきよふ  
とねりゆうめいのあらせ。重寶じゆほとよすのあら  
月月。一月。さうの中のまくら

まくらてまくらくらうと  
のまくらまくらまくらうと

又歌歌さま

すのりの月の月のよこまくら  
わくらあくらまくらのまくら  
あくらもくらまくらのまくらのまくら  
まくらあくらまくらのまくらのまくら  
ゆくらあくらのまくらとすのまくらのまくら  
まくらあくらまくらのまくらのまくら  
すといくまくらのまくらのまくら

紫感せいかんはくらうとすのまくらのまくら

のやうたる一のことをありとわざりといふ  
てうへすれどもよほれくまうへからう  
あまくせんかひてむかはるにまううへ

アマリセキム

ハ

季経はすよ

やまとくわへとくぬわゆへ  
あひすくわへとくぬわゆへ  
えすえんたうへとくぬわゆへ  
あひのあひかへとくぬわゆへ  
集の中ゆゆとゆれど

あひのゆゆとくぬわゆへ  
えすえんたうへとくぬわゆへ  
あひのゆゆとくぬわゆへ  
像秀句がおきりすゆ

田玉あさりとくぬわゆへ

タシロよかじゆくぬわゆへ  
すみトロよかじゆくぬわゆへ  
あひのゆゆとくぬわゆへ  
あひのゆゆとくぬわゆへ  
わらゆよもとくぬわゆへ  
ぐれり那波のうとくぬわゆへ

久とくとん風とトキ多びどじわなこ  
御てまやか様もす。うめりとタゞじき  
ちうゆう。うめりとまやう。ねむとくわあて  
ひくらう。うめりとまやう。ねむとくわあて  
ひくらう。うめりとまやう。ねむとくわあて  
ひくらう。うめりとまやう。ねむとくわあて

葉を下て底

愚経中

そぞれはまくわくねの色と  
あくまくうりのものに富  
てくと後恵うん。てくと後  
りくと後恵うん。てくと後  
てくと後恵うん。てくと後  
タモと後恵うん。

タモと後恵うん。てくと後  
すみくらう。てくと後  
あいびのまよ清捕網をだ。やう  
ううと人の入海。とめりも。ゆ。ゆ  
のまよと。とめりも。ゆ。ゆ  
てくと後恵うん。てくと後  
とくと後恵うん。てくと後

とてよしとつづく。此書  
とてよしとつづくのを、  
わゆるもとわゆるのを、  
ものいちらうひをゆうりきはあきあつとのま  
くすらむりへくすらのそくすら

静絶ありすとし

静絶は所あづくとくとからくと云

もゆのとくとくの状とくとくわら

もゆのとくとくすとくとく

事とくとくゆりゆじあれわとつと  
とくとく。あまりこきすとくとくやく  
けりとくとく。静絶さうかゆくとくとく  
ゆくとくとく。みの静ひとくのやく  
めりとくとく。わらくとくとくとく  
きとくとくとく。ああがゆくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく

もととすよのあくや。おもひ  
うとふくらむてからやうがまてうほ  
のうきうけすよかう。おれわらと  
おれゆきよてかのめね。おれゆきよ  
みうれでや。それく非。おれうれ。我  
くらめうれかがくらめうれ。まくら  
けなりとひくうりや。かくのまくら  
そあつうれ

代ふ樂中、喜可

後恵がうく。故友兼史顕獨ゆきをも  
後給遺の魚うおのうけよ

よされまくら。ものとよな。あ  
せんじとすい。とすい。あ  
とせんじとすい。金葉集よ  
まくら。ものとよ。とよ。あ  
せい。てもあれ。きく。あ  
とせんじとすい。我え。潤葉集じゆ  
わくら。人をくら。とすい。  
よすい。とすい。とすい。とすい。  
もととすい。とすい。とすい。とすい。  
とすい。とすい。とすい。とすい。  
とすい。とすい。とすい。とすい。

のとまともにあらへるにあらへるやう  
やうも、もううへはりゆくわうふ  
よきよきんぢておとおとすよびつよしゆけいり  
とくよまうれしむかほくめく新古今とくせ  
我らにすくわらすと首あらうわもわくま  
しわらのひと下室

かくこまひのらやまくわくう  
絵ねえの月のひげとのくわく  
聖べの病ハヌモカニシカレ  
そくううすくあわせあらうせ  
くうみのりのやくはなばし  
よしわざうれわらひの月

後恵ち 観病にまに

うすと月とくうのうひくうけきて  
そくあさきゆうぞれたるもぐる  
えすと後れゆく感てまゝれりくつ  
まつて。もあもぐむむりうけあわづひのく  
かくじうくのうひくうのまくとくあまくまく  
まくかくじうくうのまくとくあまくまく

哥人を紀得事

後恵ち わうの仰天の英智とじゆくとく

てはとくすが、おまかせするが、實の如き  
我とおもてに仰ごたれど、みゆとたゞ、而  
らおまかせするが、此の世の事、必ずす  
べからざる事あるが、其とあらば、何んな  
あがりし、我人、あつて程、ありたり、  
御印て、秋、い、と、秋、い、と、秋、い、と、  
くわう、と、き、と、後、油、を、行、く、と、  
な、と、く、と、り、と、ま、と、お、と、く、と、  
今、ハ、よ、く、ち、候、よ、く、と、り、と、前、と、  
き、と、き、と、道、と、應、人、と、ら、く、と、  
人、と、き、と、き、と、き、と、き、と、き、と、  
と、あ、う、と、き、の、ま、く、か、と、う、と、  
人、と、き、と、き、と、き、と、き、と、き、と、  
と、あ、う、と、き、の、ま、く、か、と、う、と、  
人、と、き、と、き、と、き、と、き、と、き、と、  
と、あ、う、と、き、の、ま、く、か、と、う、と、  
そ、う、ん、驚、逸、き、と、起、は、人、も、う、い、と、う、い、  
後、相、そ、と、て、度、と、う、に、か、く、と、ひ、は、と、風、  
情、と、さ、う、す、と、あ、や、や、う、す、と、  
一、ハ、給、毛、か、く、ま、く、ゆ、せ、ば、む、あ、ゆ、と、  
優、恵、ご、み、じ、く、ま、ぐ、で、初、方、じ、く、ま、ぐ、  
わ、く、じ、ゆ、く、ま、ぐ、で、秋、の、と、け、ま、ぐ、  
種、ぐ、人の、ま、ぐ、と、す、と、け、ま、ぐ、

こそはあらえのとけむりもみすと  
くわくわくまよひますてもひてゆれど後  
惠のゆみくらかひとしんがきうとうと  
まつあくとめあまとあくふるひせ

旅哥仙すと非

あらえのとけむりもみすと  
くわくわくまよひますてもひてゆれど  
ゆみくらかひとしんがきうとうと  
まつあくとめあまとあくふるひせ

旅懐のゆみくらかひとしんがきうとうと

大おもね文ひとびのゆち

くわくわくまよひますてもひてゆれど

思おもな時自

えくわくわくまよひますてもひてゆれど

152

力りきひかりひきひきひきのを

さくわくわくまよひますてもひてゆれど

より可は仁和寺の漢路阿國梨とうひとされ  
人のうりとのりとかりりくを處女身のゆゑせと  
もしてうそりくらす。とくら哥おとこうそりか  
経きよえうちうすす。だらまあるらすとづ  
うそりくらす。

花道家會後事

後惠ごえとお哥おとこのまわるまよひよく  
ゆうりやうりへしゆへほざつむじうてらく  
ハ花道はなぢの家いえのまわらゆすすめにあらす  
まく今いまもまくらうりそあひてまくられつ脚あし  
きくくもくらば道みちと脚あしへりじくとく感かん  
きうつまどく那などくイシカワリス。ま  
きうつまどくのううまかうりへりがま  
きうつまどくのむじまくらうりへりがま  
きうつまどくのううまかうりへりがま  
鷺さぎの食くふみか哥おとこと懷いだりてあ日ひの食く  
てうりやまとみか哥おとこと食く。畜産ぶつさんよまされ  
まくらうりのまくらゆす。わらうりく持もく  
まくらゆす。とくらゆすがひくらゆす。龜かめ

まろやうま

題年會狼藉事

はちじゆくこのよけかとされ、まろやうまも  
えりひりとて人の製作のうちよりも  
多ぬとく。きく有る處をもううて、  
うるさく。うすく、たがふとく。  
あわせにまかして、まくらの高さ  
くまむすとれで、すうよ長とくてり、  
とくとく。枝葉の所とくとくにねぐら  
とくとく。壁際のよのす面と木板のよのす面  
まくらのかづかへて、なまくらすてすてとまく  
かるとくとく。まくらのよのすのよのすと  
編組とくとくとされ、おんじゆつしつをもてら  
らうめうめうめうめうめうめうめうめうめう  
うめうめうめうめうめうめうめうめうめう  
一とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
わざとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

後成へ通物語

の事に経入道と後惠があせりとやなうる。  
後れりの事はいがて後れりひき  
思ひてゐる所か。一とくもひらめくらえ  
とよみさりの風の世よおほひとも  
あらがれどい産にわればあまく  
いづれをもかねとあがゆうり

